Title キリシタン支料に関する基礎的研究 Sub Title 「Fundamental research of the Christian materials of Japan Author	Keio Associated Repository of Academic resouces						
Publisher 歴	Title	キリシタン史料に関する基礎的研究					
Publisher Delication year Jutite Jalc DOI Abstract A時まで、キリシタン史料について刊本を中心として調査・研究を行なった。キリシタン史料としては一次史料である文書の研究が重要なのは言うまでもないが、刊本については文書の情報がどのように伝わって目前されてのか、またそれによってキリシタン時代の布教育権がヨーロッパにおいてどのように提売されていったのかを考察した。そのひとつの例として、ボルトガルノイエズス会土アントニオ・ヴィエイラ(一六〇八・九七)を取り上げることにした。彼は、若い頃はボルトガルエで付きの間で割をして、またボルトガルの外交官として活躍したが、後半生はブラジルを中心にお飲て書いて作り、のでは、新キリスト教徒にゴダヤ教から改宗したギリアした。一方、ヴィエイラは、新キリスト教徒にゴダヤ教から改宗したギリアした。一方、ヴィエイラは、「新キリスト教徒にゴダヤ教から改宗したギリアした」と称。一方、ヴィエイラは、「新キリスト教徒にゴダヤ教から改宗したギリスト教徒であった彼にはゴダヤ教の嫌疑があり、コインブラの異論を開からたびたび新途を受けている。一方、ヴィエイラは、「安は、影妙鏡をプレて知ら、プリス・サビエルルの現象をではエファンシスコ・ザビエルをデーマとした「昵れるザビエル、投資をサビエル」(ソフボン・六大加亜ギリント教徒)であったが、「安して知らがたれることはほとんどなかったが、ザビエルのインドロ本研究とは結び付いていない。同書は、ザビエルのイン・ロッ県研究の基礎があって初めて理解できるものである。検討の結果、ブイエイラのザビエルの理解の表書に答えるってサビエルの事績を知ったのではなく、ザビエルについての史料研究の基礎があって初めて理解できるものである。検討の結果、ブイエイラのザビエル理解の検討に信まっているが、「今後はヴィエイラが利用した史料についてきらに検討したいと考えている。In this research, Investigated about Christian historical materials mainly the book. It is said that it is important to understand how the information in the Christian era was inherited in Europe As one example, I picked up the Portuguese Jesuits Antonio Weira, S. J. (1608-97). He was active as a father confessor of the Portuguese royal family and as a diplomat of Portugal in Portugal weight in Strain and he is under suspicion of Judaism and he is under suspicion of	Sub Title	Fundamental research of the Christian materials of Japan					
Publication year	Author	浅見, 雅一(Asami, Masakazu)					
Jat C DOI Abstract 本研究では、キリシタン史料について刊本を中心として調査・研究を行なった。キリシタン史料としては一次史料である文書の研究が重要なのは言うまでもないが、刊本については文書の情報がどのように伝わって印刷されたのか、またそれによってキリシタン時代の布教情報がヨーロッパにおいてどのように継承されていったのかを考察した。そのひとつの例として、ポルトガル人イエズス会士アントニオ・ヴィエイラ(一六〇八~九七)を取り上げることにした。彼は、若い頃はポルトガル王室付きの際野門家として、またボルトガルの外交官として活躍したが、後半生はブラジルを中心に有妖荒動に従事している。同時に、新キリスト教徒(ユダヤ教から改宗したキリスト教徒)であった彼にはユダヤ教の嫌疑があり、コインブラの実端幕間がからたびたび訴追を受けている。一方、ヴィエイラは、対しているが、彼の説教集にはフランシスコ・ザビエルをデーマとした「眼れるザビエル、関策はマランシス」・ザビエルをデーマとした「眼れるザビエル、関策はオリスト教徒(フランシスコ・ザビエルをデーマとした「眼れるザビエル、関策はイフシンス」・ザビエルをデーマとした「眼れるザビエル、関策はインスト教・アンシス」・ザビエルをデーマとした「眼れるザビエル、関策はインストン・日本布教に多大な関心を寄せている。これまで、同書について関心がもたれることはほとんどなかったが、ザビエルの市教事業がヨーロッパに与えた影響を考えるうえては重要な著作である。ボルトガルではフィエイラは、ザビエルについての史料研究の基礎があって初めて理解できるものである。検討の結果、ヴィエイラは、ザビエルの書物などの一次収料によってザビエルの事儀をグリスイン・フィエイラは、ザビスルの書物などの一次収料によってザビエルの事儀をグリスイン・フィエイラは、ザビスルの書をリストでは、カイン・フィエイラは、ザビスルの書をリストでは、カイン・フィエイラは、ザビスルのではなく、ザビエル伝などの刊本によって知ってと考えられる。現時点では、ヴィエイラは、ザビスルの音ながでは、フィエイラは、サビスルの音ながでは、フィエイラは、サビスルの音ながでは、フィエイラが利用した史料についてきらに検討したいと考えている。In this research、I investigated about Christian historical materials mainly the book. It is said that it is important to research on documents that are primary historical documents, but it is also important to ruderstand how the information of the documents was inherited in Europe. As one example、I picked up the Portuguese Jesuits Antonio Vieira、S. J. (1600-87). He was active as a father confessor of the Portuguese poyal family and as a diplomat of Portugal in his young days, but later he engaged in missionary activities mainly in Brazil. At the same time, hexa New Christian (a Christian who converted from Judaism) and he is under suspicion of Judaism and was frequently prosecuted by the Inquisition Office of Colimbra. Measumble. Vieira is blooks we see "Sleeping Xavier, Awakening Xavier" (Lisbon, 1694), with the theme of Francisco Xavier's Indian-Japanese missionary work pas we to Everyer. S. J. (1506-652). Vieira has never conde that Xavier's missionary work gave to Everyer In Portugal there are accumulations of Vieira studies, but that is not related with Japane	Publisher	慶應義塾大学					
Jal C DOI Abstract 本研究では、キリシタン史料について刊本を中心として調査・研究を行なった。キリシタン史料としては一次史料である文書の研究が重要なのは言うまでもないが、刊本については文書の情報がどのように伝わって印刷されたのか、またそれによってキリシタン時代の布教情報がヨーロッパにおいてどのように優かまれていったのかを考察した。そのひとつの例として、ボルトガル人イエズス会士アントニオ・ヴィエイラ(一六〇八〜九七)を取り上げることにした。彼は、若い頃はボルトガルエ室付きの際事育祭として、またボルトガルの外交官として活躍したが、後半生はブラジルを中心に有残活動に従事している。同時に、新キリスト教徒(コダヤ教から改宗したキリスト教徒)であった彼にはユダヤ教の嫌疑があり、コインブラの異端帯間所がらたびたび訴追を受けている。一方、ヴィエイラは、対しているが教養にはフラジンスコ・ザビエルをデーマとした「軽れるザビエル、対機でもサビエル。「リスポン、一大九四年というものがある。ヴィエイラは、ましたことはなく、インドに来たことさえないが、サビエルのインド・日本布教に多大な関心を寄せている。これまで、同書について関心がもたれることはほとんどなかったが、ザビエルの事物などのは、サビエルにいる問念はが付いていない。同書は、ザビエルにつま物などの情報がある。ボルトガルではヴィエイラは、ザビエルにつなりを終めがあるが、それが日本研究の基礎があって初めて理解できるものである。検討の結果、ヴィエイラは、サビエルの書物などの一次史料によってザビエルの事義を知ったのではなく、サビエル伝などの刊本によって知ってと考えられる。現時点では、ヴィエイラは、サビエルの書物などの一次史料によってザビエルの事像をグリイエーラがリボした。大きオンにの大きないが、ウ後はヴィエイラが利用した里料についてさらに検討したいと考えている。In this research、I investigated about Christian historical materials mainly the book. It is said that it is important to research on documents that are primary historical documents, but it is also important to understand how the information of the documents was transmitted and printed on the subjects and how the propagation of information in the Christian ear was inherited in Europe. As one example, I picked up the Portuguese Poyal family and as a diplomat of Portugal in his young days, but later he engaged in missionary activities mainly in Brazil. At the same time, he was a New Christian (a Christian who converted from Judaism) and he is under suspicion of Judaism and was requently prosecuted by the Inquisition Office of Colimbra. Meanwhile, Vieira is Xavier's Indian-Japanese missionary work gave to Europe. As one example, I picked up the Portuguese royal family and as a diplomat of Portugal in his young days, but later he engaged in missionary activities mainly in Brazil. At the same time, he was a New Christian (a Christian who converted from Judaism) and he is under suspicion of Judaism and was requently prosecuted by the Inquisition Office of Colimbra. Meanwhile, Vieira in Xavier's Indian-Japanese mission	Publication year	2018					
Abstract	•	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)					
しては一次史料である文書の研究が重要なのは言うまでもないが、 刊本については文書の情報がどのように伝わって印刷されたのか、またそれによってキリシタン時代の布教情報がヨーロッパにおいてどのように継承されていったのかを考察した。そのひとつの例として、ボルトガルハイエズス会士アントニオ・ヴィエイラ(一六〇八~九七)を取り上げることにした。彼は、若い岐はボルトガルア至付きの聴取可象として、またボルトガルの外交官として活躍したが、後半生はブラジルを中心に布教活動に従事している。同時に、新キリスト教徒(ロダヤ教から改宗したキリスト教徒)であった彼にはユダヤ教の嫌疑があり、コインブラの異端器時所からたびたび新道を受けている。一方、ヴィエイラは、すくれた説教者として知られており、多数の配数集を活しているが、彼の説教集にはフランシスコ・ザビエルをデーマとした「眠れるザビエル。関語せるザビエル。リフスボン、一六九四年)というものがある。ヴィエイラは、来日したことはなく、インドに来たことさえないが、ザビエルの布教事業がヨーロッパに与えた影響を考えるうえでは重要な著作である。ボルトガルではヴィエイラ研究の蓄積はあるが、それが日本研究とは結びがしていない。同書は、サビエルの布教事業がヨーロッパに与えた影響を考えるうえでは重要な著作である。ボルトガルではヴィエイラ研究の蓄積はあるが、マイエイラが利用した史料での出産があって初めて理解できるものである。検討の結果、ヴィエイラのザビエル理解の検討に留まっているが、今後はヴィエイラが利用した史料についてさらに検討したいと考えている。In this research、Investigated about Christian historical materials mainly the book. It is said that it is important to research on documents that are primary historical documents, but it is also important to research on documents that are primary historical documents, but it is important to research on documents that are primary historical documents, but it is also important to understand how the information of the documents was transmitted and printed on the subjects and how the propagation of information in the Christian era was inherited in Europe. As one example, I picked up the Portuguese Jesuits Antonio Vieira, S. J. (1608-97). He was a kew Christian (a Christian who converted from Judaism) and he is under suspicion of Judaism and was frequently prosecuted by the Inquisition Office of Combra. Meanwhile, Vieira is known as an excellent preacher and has retained numerous preachers, and his preachers his books we see "Sleeping Xavier, Awakening Xavier" (Lisbon, 1694), with the theme of Francisco Xavier, S. J. (1506-52), Vieira has never come to Japan nor India, but he has keen interest in Xavier's Indian-Japanese missionary works. Until now there has been little interest in the book, but it is an important work in thinking the influence that Xavier's missionary work gave to Europe. In Portugal there are accumulations of Vieira studies	JaLC DOI	· /					
Genre Research Paper		しては一次史料である文書の研究が重要なのは言うまでもないが、 刊本については文書の情報がどのように伝わって印刷されたのか、またそれによってキリシタン時代の布教情報がヨーロッパにおいてどのように継承されていったのかを考察した。そのひとつの例として、ボルトガル人イエズス会士アントニオ・ヴィエイラ(一六〇八~九七)を取り上げることにした。彼は、若い頃はボルトガル王室付きの聴罪司祭として、またボルトガルの外交官として活躍したが、後半生はブラジルを中心に布教活動に従事している。同時に、新キリスト教徒(ユダヤ教から改宗したキリスト教徒)であった彼にはユダヤ教の嫌疑があり、コインブラの異端審問所からたびたび訴追を受けている。一方、ヴィエイラは、すくれた説教者として知られており、多数の説教集を遺しているが、彼の説教集にはフランシスコ・ザビエルをテーマとした『眼れるザビエル、覚醒せるザビエル』(リスボン、一六九四年)というものがある。ヴィエイラは、来日したことはなく、インドに来たことさえないが、ザビエルのインド・日本布教に多大な関心を寄せている。これまで、同書について関心がもたれることはほとんどなかったが、ザビエルの布教事業がヨーロッパに与えた影響を考えるうえでは重要な著作である。ボルトガルではサイエーの映画を描述があって初めて理解できるものである。検討の結果、ヴィエイラは、ザビエルの中外研究の基礎があって初めて理解できるものである。検討の結果、ヴィエイラは、ザビエルの書翰などの一次史料によってザビエルの事績を知ったのではなく、ザビエルになどの刊本によって知ったと考えられる。現時点では、ザイエノラが利用した史料についてさらに検討したいと考えている。In this research, I investigated about Christian historical materials mainly the book. It is said that it is important to research on documents that are primary historical documents, but it is also important to understand how the information of the documents was transmitted and printed on the subjects and how the propagation of information in the Christian era was inherited in Europe. As one example, I picked up the Portuguese Jesuits Antonio Vieira, S. J. (1608-97). He was active as a father confessor of the Portuguese royal family and as a diplomat of Portugal in his young days, but later he engaged in missionary activities mainly in Brazil. At the same time, he was a New Christian (a Christian who converted from Judaism) and he is under suspicion of Judaism and was frequently prosecuted by the Inquisition Office of Coimbra、Meanwhile, Vieira is known as an excellent preacher and has retained numerous preachers, and his preachers his books we see "Sleeping Xavier, Awakening Xavier" (Lisbon, 1694), with the theme of Francisco Xavier, S. J. (1506-52), Vieira has never come to Japan nor India, but he has keen interest in Xavier's Indian-Japanese missionary works. Until now there has been little interest in the book, but it is an important work in thinking the influence that Xavier's missionary work					
· ·							
URL https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170255							
	URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170255					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quotin	g the content, please follow the Japanese copyright act.

2017 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	補助額	200 ((B)	千円
	氏名	浅見 雅一	氏名 (英語)	Masakazu Asami			(D)	

研究課題 (日本語)

キリシタン史料に関する基礎的研究

研究課題 (英訳)

Fundamental Research of the Christian Materials of Japan

1. 研究成果実績の概要

本研究では、キリシタン史料について刊本を中心として調査・研究を行なった。キリシタン史料としては一次史料である文書の研究が重要なのは言うまでもないが、刊本については文書の情報がどのように伝わって印刷されたのか、またそれによってキリシタン時代の布教情報がヨーロッパにおいてどのように継承されていったのかを考察した。そのひとつの例として、ポルトガル人イエズス会士アントニオ・ヴィエイラ(一六〇八~九七)を取り上げることにした。彼は、若い頃はポルトガル王室付きの聴罪司祭として、またポルトガルの外交官として活躍したが、後半生はブラジルを中心に布教活動に従事している。同時に、新キリスト教徒(ユダヤ教から改宗したキリスト教徒)であった彼にはユダヤ教の嫌疑があり、コインブラの異端審問所からたびたび訴追を受けている。一方、ヴィエイラは、すぐれた説教者として知られており、多数の説教集を遺しているが、彼の説教集にはフランシスコ・ザビエルをテーマとした『眠れるザビエル、覚醒せるザビエル』(リスボン、一六九四年)というものがある。ヴィエイラは、来日したことはなく、インドに来たことさえないが、ザビエルのインド・日本布教に多大な関心を寄せている。これまで、同書について関心がもたれることはほとんどなかったが、ザビエルの布教事業がヨーロッパに与えた影響を考えるうえでは重要な著作である。ポルトガルではヴィエイラ研究の蓄積はあるが、それが日本研究とは結び付いていない。同書は、ザビエルについての史料研究の基礎があって初めて理解できるものである。検討の結果、ヴィエイラは、ザビエルの書翰などの一次史料によってザビエルの事績を知ったのではなく、ザビエル伝などの刊本によって知ったと考えられる。現時点では、ヴィエイラのザビエル理解の検討に留まっているが、今後はヴィエイラが利用した史料についてさらに検討したいと考えている。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

In this research, I investigated about Christian historical materials mainly the book. It is said that it is important to research on documents that are primary historical documents, but it is also important to understand how the information of the documents was transmitted and printed on the subjects and how the propagation of information in the Christian era was inherited in Europe. As one example, I picked up the Portuguese Jesuits Antonio Vieira, S. J. (1608–97). He was active as a father confessor of the Portuguese royal family and as a diplomat of Portugal in his young days, but later he engaged in missionary activities mainly in Brazil. At the same time, he was a New Christian (a Christian who converted from Judaism) and he is under suspicion of Judaism and was frequently prosecuted by the Inquisition Office of Coimbra. Meanwhile, Vieira is known as an excellent preacher and has retained numerous preachers, and his preachers his books we see "Sleeping Xavier, Awakening Xavier" (Lisbon, 1694), with the theme of Francisco Xavier, S. J. (1506–52). Vieira has never come to Japan nor India, but he has keen interest in Xavier's Indian–Japanese missionary works. Until now there has been little interest in the book, but it is an important work in thinking the influence that Xavier's missionary work gave to Europe. In Portugal there are accumulations of Vieira studies, but that is not related with Japanese studies. However, this book can be understood with the foundation of research on historical documents about Xavier. Vieira did not get the knowledge of the results of Xavier missionary works by the primary historical documents such as Xavier's writing, but it is thought that he knew Xavier by the works of the others such as his biography. I have treated only understanding of Xavier by Vieira, but in future I would like to treat the materials used by Vieira.

3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
浅見雅一	キリスト教と寛容	山本敏夫記念文学部基金講座	2017年4月6日-7月21日			